

4月21日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書 21：15－21

「わたしに従いなさい」

イエスがペトロに「わたしを愛しているか」と問われた時、ペトロは即座に「はい」と答えます(ヨハネによる福音書21:15)。これまでもずっとイエスと共に歩んできたのだから、そんなことは当然だとばかりに。けれども、二度、三度イエスが「愛しているか」と問われた時、ペトロは悲しくなつたといひます(ヨハネによる福音書21:17)。「自分が以前、イエスを三度否定したことへの意趣返しなのだろうか」と思ったのかもしれませんが(「ペトロは、再び打ち消した。するとすぐ、鶏が鳴いた。」ヨハネによる福音書18:27)。

もちろん、イエスの意図がそのようなところになつたことは明らかです。イエスはただ、ペトロの思いを確認したかっただけなのです。「あなたの未来には、これまで以上の苦難が待っているかもしれない。それでも、私を愛しているか」と(ヨハネによる福音書21:18)。そして、ペトロに「わたしに従いなさい」(ヨハネによる福音書21:19)と言われます。たとえ何があろうとも、ただ私と共に歩みなさい、と。

話がここで終わっていれば、単なる「良い話」だったかもしれません。しかし、物語は続きます。ペトロは「イエスの愛しておられた弟子」と自分を比べたくなくなってしまったのです(「ペトロは彼を見て、『主よ、この人はどうなるのでしょうか』と言った。」ヨハネによる福音書21:21)。

他者と比較する必要など全く無いにもかかわらず、なぜ人と比べてしまうのでしょうか。きっとそれは安心したいからでしょう。「これだけやっているから自分は大丈夫」と思いたい。また、「あの人があれだけ恵みを受けているのならば、私はなおさら」と思いたいのです。

もしかするとそれは、受験生が模擬試験を受けるのに似ているのかもしれませんが。合否判定が上がった、偏差値が上がったと一喜一憂するのですが、その数字は母集団が変われば信憑性を失うことに気づいていません。全ての他者と比較することなどできはしないことをわかっていません。そして何よりも、比較するということは、自分の内なる差別性と結びついていることに気づいていないのです。

最近学んだ言葉の一つに「ジェンダー正義」(Gender Justice)があります。ジェンダー差別解消のための動きについて用いる言葉です。「公平」は、皆に平等に支援をすることを指します。しかし、結果は不平等になることも多いでしょう。一方、「公正」はそれぞれに必要な支援をすることによって、結果を平等にしようとすることを指します。しかし、支援という尺度で見れば、不平等が起こってしまいます。「正義」とは、そもそも支援する必要が無い社会を形成することで、不平等そのものをなくしてしまおうとする動きのことを指します。もちろん、その道は平坦ではありませんが、目標にしなければ、そして動き出さなければ、皆が安心して平和に生きられる未来はありません(「苦難のはざまから主を呼び求めると／主は答えてわたしを解き放たれた。」詩編118:5)。

そして、差別はジェンダーだけに限りません。ありとあらゆる差別解消のために、私たちは働くことが求められています。そのためにはまず知ることが大切です。「神さまはあなたを特別な存在として造られた」(平良愛香)のです。人間のカタゴライズなど関係なく、神は一人ひとりの存在を愛してくださるのです(「あなたの神はあなたを喜びとされる」イザヤ書62:5)。

「あなたは、わたしに従いなさい。」(ヨハネによる福音書21:22)

だから、イエスは再度、ペトロに語りかけられます。他者は関係ない。あなたはあなたなのだから、あなたはあなたとして私と向き合い、私と歩みなさい、と。誰一人として、神の前に「同じ」者など存在しません。金子みすゞの言葉を借りるならば、「みんなちがってみんないい」のです。ペトロがこの後、一切の比較をしなかったか。きっとそのような場面はあったでしょう。それでも、人生を振り返りながら、何度も失敗してきたこと、何度も立ち直ってきたこと、いや、立ち上がらせていただいたことを思い起こしたに違いありません(「わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。」ヨハネの黙示録3:19)。

自らの内にある偏り、偽善や欺瞞、分かつたつもりになっている傲慢や差別性などを問うこと、そして、それを受け止めた上で、学び続け、聴き続け、考え続け、問い続けながら、これからも主に従って参りましょう。

